

31. 農学部

(1) 農学部の教育目的と特徴	31-2
(2) 「教育の水準」の分析	31-3
分析項目Ⅰ 教育活動の状況	31-3
分析項目Ⅱ 教育成果の状況	31-11
【参考】データ分析集 指標一覧	31-13

(1) 農学部の教育目的と特徴

1. 農学の使命は、食料・生活資材の安定供給、生物生存環境の保全、人類の健康と福祉への貢献である。農学部は、「農学の使命を達成するために、生物生産、生物機能、生物環境等に関連する学問諸分野において、国際的に通用する専門性と技術を有するばかりではなく、豊かな課題探求能力とバランス感覚を備えた多様な人材を育成すること」を教育目的としている。
2. 農学部では、第3期中期目標を世界的な視野、自立的学習能力と課題設定・問題解決能力、行動力とリーダーシップを備えた学士の育成へ向けた教育内容および方法を整備・改善し、「農学に対する総合的な知識、国際的に通用する専門性を備えた教養人を養成する」と設定している。
3. 農学部は生物資源環境学科の1学科からなり、生物資源生産科学、応用生物科学、地球森林科学、動物生産科学の4コースを設置し、さらに各コースを複数の専門分野に区分した総合的な教育体制を編成している。並行して国際コースを設置し、3年次に4コースの中から希望の研究分野を選択し、卒業論文の作成に取り組む。
4. 本学部の教育目的を実現するため、個別学力検査前期・後期日程、及びアドミッション・オフィス方式による選抜（AO入試）など多様な入学者選抜を実施している。選抜された学生は農学部に一括入学し、農学の広範な学問分野を概観し、1年半後に上記4コース・11分野に配属され、専門性の高い専攻教育課程に進む。これにより広い視野と豊かな基礎知識に立脚した高度な専門教育を施すことができる。
5. 農学が解決すべき問題は本質的にグローバルであり、農学教育には高い国際性が求められる。そのため、農学教育の国際化対応は重要な問題である。

(2) 「教育の水準」の分析

分析項目Ⅰ 教育活動の状況

<必須記載項目1 学位授与方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された学位授与方針（別添資料 7331-i1-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目2 教育課程方針>

【基本的な記載事項】

- ・ 公表された教育課程方針（別添資料 7331-i2-1）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

（特になし）

<必須記載項目3 教育課程の編成、授業科目の内容>

【基本的な記載事項】

- ・ 体系性が確認できる資料（別添資料 7331-i3-1）
- ・ 自己点検・評価において体系性や水準に関する検証状況が確認できる資料（別添資料 7331-i3-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部・学科の教育体制は、4教育コース、11教育分野で構成される。農学部では農林水産業及び関連の生物産業の発展のため、柔軟な考えを持った高度専門職業人の育成、大学院へ進学して指導的な役割を果たす研究者や教育従事者の育成にも力を入れ、国・地方自治体の研究機関、企業等の研究機関へも多くの人材を輩出している。[3.1]
- 農学部に入學した学生は1年半の基幹教育で、基礎・教養科目を修得するとともに、本学部の教育内容を俯瞰するための農学入門科目を受講し、配属コース・分野を選択するための情報を得る事ができる。2年次前期、後期において、基幹

九州大学農学部 教育活動の状況

教育から専門教育への移行準備のための共通基礎科目（9科目から選択）を履修する。その後4教育コースに分かれ専門教育を受ける。それぞれの教育コースでは、教育目的に即した科目群が設定されている。このように学部教育は基幹教育や低年次教育との繋がりを意識した、ボトムアップ的な体系的カリキュラムとなっている。[3.1][3.2][3.3]

- 外部講師を招聘する集中講義も必要に応じて開講され、先進的な分野での情報をもれなく学生に伝達することになっている。[3.3]
- 専門教育への移行後も、英語教育は継続的に行われ（必修科目：科学英語）、大学院入試に民間の英語資格試験（TOEIC等）を全面的に取り入れている為、英語学習へのモチベーションは高く、大学院入試におけるTOEIC平均点はここ3年間上昇傾向にある。（別添資料 7331-i3-3）[3.3]
- 大学院連携科目として、大学院の科目履修を所定の手続きにより学部4年生に認めており、学部学生の大学院進学の意欲向上に役だっている。[3.3]
- 教育分野によっては、（一般社団法人）日本技術者教育認定機構のJABEE認定制度による技術者教育プログラムに準拠しており、プログラム内でPDCAサイクルを回しながら自己改善できる仕組みを導入している。（別添資料 7331-i3-4）[3.2]

<必須記載項目4 授業形態、学習指導法>

【基本的な記載事項】

- ・ 1年間の授業を行う期間が確認できる資料（別添資料 7331-i4-1）
- ・ シラバスの全件、全項目が確認できる資料、学生便覧等関係資料（別添資料 7331-i4-2～3）
- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（別添資料 7331-i4-4）
- ・ インターンシップの実施状況が確認できる書類（別添資料 7331-i4-5）
- ・ 指標番号5、9～10（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 各教育コースのカリキュラムでは通常、午前に座学、午後には実験・実習が組まれている。それに加えて、演習林、農場、水産実験所、高原農業実験実習場を最大限活用したフィールドワーク実習を行っており、実際の現場における実問題解決型の教育が可能となっている。[4.1][4.2][4.8]
- 学生が主体的に学修するために、e-learning教育システム（Moodle）が導入さ

れており、授業資料配布、出欠、アンケート調査等に利用されている。またこのシステムにより学生による授業評価も行っており、その結果は HP に公開されている。農学部の教育に関する満足度調査（（再掲）別添資料 7331-i3-2）も毎年行っており、分野毎に学生の満足度がわかるため、改善策を検討でき、PDCA サイクルを回すことができる。成績評価には、シラバス及び学習到達点を明示したルーブリックが活用されており（（後掲）別添資料 7331-iC-1）、学生は成績評価の基準（達成度に基づく GPA による評価）をあらかじめ理解して学習目標をたてることができる。[4.3][4.7]

- 大学全体で、GPA2.0 以上を卒業の目安とすることが目標として掲げられており、それに向けて効果的な履修指導、厳格な成績評価を行っている。また、大学院に続いて、2020 年度から学部に 4 学期制を導入する事が決定しており、それに対応したカリキュラムの整備を 2019 年度に行った。農学部では、卒業論文等の指導は指導教員（教授・准教授・講師）が担当するが、実験・演習等は大学院生が TA として教員をサポートしている。TA 制度は大学院生のキャリア開発としても利用されている。学生の多くは大学院に進学するので、学部におけるインターンシップはそれほど多くない。[4.4][4.5]
- 一部の教育プログラムは、（一般社団法人）日本技術者教育認定機構の JABEE 認定制度による技術者教育プログラムに準拠しており、この枠組みの中において組織する外部委員会では関連する業界等に所属する方々を構成委員に委嘱しており、社会の要求と学習・教育到達目標および教育活動の点検と提言を依頼している。[4.2]

<必須記載項目 5 履修指導、支援>

【基本的な記載事項】

- ・ 履修指導の実施状況が確認できる資料（別添資料 7331-i5-1）
- ・ 学習相談の実施状況が確認できる資料（別添資料 7331-i5-2）
- ・ 社会的・職業的自立を図るために必要な能力を培う取組が確認できる資料（別添資料 7331-i5-3）
- ・ 履修上特別な支援を要する学生等に対する学習支援の状況が確認できる資料（別添資料 7331-i5-4）

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 1 年次、2 年次の春に学生の履修指導のためのガイダンスが開催されている。

九州大学農学部 教育活動の状況

学生が主体的に学修するために、e-learning 教育システム (Moodle) が導入されている。2018 年に伊都地区に移転し、学生の自習室が設置されており、おおいに活用されている。また、不定期であるが、企業の説明会を開いており、キャリア支援の取り組みも行っている。農学部では優秀な成績を収めた学生に対して農学部賞を設けており、学修意欲向上へのモチベーションとなっている。

(別添資料 7331-i5-5) [5.1]

<必須記載項目 6 成績評価>

【基本的な記載事項】

- ・ 成績評価基準 (別添資料 7331-i6-1)
- ・ 成績評価の分布表 (別添資料 7331-i6-2)
- ・ 学生からの成績評価に関する申立ての手続きや学生への周知等が明示されている資料 (別添資料 7331-i6-3)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 各科目の学修の達成目標がルーブリックに明示されており ((後掲) 別添資料 7331-iC-1)、学生はシラバス上で確認できる。成績はその基準に基づいて厳格に査定されている。GPA 評価が導入されており、卒業する際に GPA2.0 以上の成績で卒業できるように指導している。[6.1]
- 農学部の学生はまず広い農学を知り、自分にとって興味深いことを知り、高度な専門性を身につけられるようになっている。[6.2]

<必須記載項目 7 卒業 (修了) 判定>

【基本的な記載事項】

- ・ 卒業又は修了の要件を定めた規定 (別添資料 7331-i7-1)
- ・ 卒業又は修了判定に関する教授会等の審議及び学長など組織的な関わり方を含めて卒業 (修了) 判定の手順が確認できる資料 (別添資料 7331-i7-2)

【第 3 期中期目標期間に係る特記事項】

- 卒業要件として、基幹教育科目 49.5 単位、専攻教育科目 75.5 単位、合計 125 単位の修得が定められている。また、卒業研究 (8 単位) が義務付けられており、卒業研究内容をコースあるいは分野単位で開催される場において発表すると共に、卒業論文を提出することが求められる。卒業判定は、コース長協議会および

教授会において行われる。[7.1][7.2]

<必須記載項目 8 学生の受入>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生受入方針が確認できる資料（別添資料 7331-i8-1）
- ・ 入学者選抜確定志願状況における志願倍率（文部科学省公表）
- ・ 入学定員充足率（別添資料 7331-i8-2）
- ・ 指標番号 1～3、6～7（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部では多様で優秀な学生を受入れるために、一般入試（前期、後期）に加え、A0 入試および国際コースの入試を実施している。[8.1]
- 後期日程では英文読解を重視しており、A0 入試では小論文と面接を重視している。一般入試以外の定員枠は全体のおよそ 15%であり、将来的には大学の方針として 30%を目標値に掲げている。国際コースでは、外国からの留学生、帰国子女、さらにインターナショナルスクールからの学生を受入れている。入学定員の管理は適切に行われている。[8.2]

<選択記載項目 A 教育の国際性>

【基本的な記載事項】

- ・ 協定等に基づく留学期間別日本人留学生数（（再掲）別添資料 7331-i4-4）
- ・ 指標番号 3、5（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 英語のみで学部の学位が取得できる学部国際コースを 2010 年に開始しているが、2017 年にはさらなるグローバル化を推進するため、従来のコースに加えて、新たな「国際コース」入学者選抜を開始した（別添資料 7331-iA-1～3）。この選抜では、外国人留学生のほか、国際バカロレア認定校・インターナショナルスクール学生、帰国子女、国内の通常の高校を卒業する日本人学生も対象とし、多様なグローバル人材育成を目指している。[A.1]
- 2017 年度、海外からの国費外国人留学生を支援するためのプログラムである文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」（学部）『世界成長を取り込む国際産業イノベーター育成工学・農学プログラム』（2017-2019）

九州大学農学部 教育活動の状況

に採択された（別添資料 7331-iA-4）。これにより、優秀な留学生を確保し、イノベーション能力を涵養しながら、高度なグローバル人材の育成に取り組んでいる。同時に、日本人学生と留学生との共学協働教育を強化し、海外からの留学生が日本の大学院（または企業）に進学（就職）し、日本の発展に寄与することを目指している。[A.1]

- 基幹教育の期間においては、アカデミックライティング、プレゼンテーション、ディベートなどとともに、微分積分、線形代数、基礎化学、力学などの理系コア科目などは、英国、米国、カナダなどのネイティブ教員が多くの科目を担当し効果的に教育にあたっている。また、国際コースを卒業した大学院生がTAとしてサポートしている。[A.1]
- 国際コースにおける専攻教育の期間においては、1コース4～6人という極めて少人数の構成とし、各コース教員が双方向的な講義を実施しており、学生の学習意欲・研究への興味を引き出している。国際コースプログラムでは、1年前期からコアセミナーなど最先端の研究を学ぶ講義シリーズを実施している。また、実験・演習科目を多く開講しており、効果的に学力・研究力を向上させる工夫をしている。[A.1]
- 国際コースにおける成績管理には、授業科目ナンバリングおよびGPA制度を導入している。[A.1]
- 国際コースのカリキュラムが円滑に運営できるように、2015年度以降、国際農業教育・研究推進センターに国際コース専任教員を配置している。[A.1]

<選択記載項目B 地域連携による教育活動>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 地域連携による教育活動を推進するために、福岡市、糸島市、唐津市、篠栗町といったキャンパス近隣の自治体と、社会連携事業を多数実施している（別添資料 7331-iB-1）。とくに近隣の自治体は、農林水産業が主要産業であることから、農林水産業に関する技術の教育研究、地域資源の活用、地域の持続的発展、人材育成、生涯学習といった観点から、緊密な連携協力を進めている。[B.1]
- 九州大学農学部の拠点は伊都キャンパスにあるが、この伊都キャンパスを含む糸島地域を対象に、農業農村環境問題の理解を通じて、環境保全の重要性および

人と自然環境の持続的共生の重要性を学ぶための授業として、地域連携科目「糸島の水と土と緑 I、II」を開講している（別添資料 7331-iB-2）。この講義では、水・土・緑の保全と合理的活用を目指しており、地域への興味を引き出すとともに、地域との連携を視野に入れている。[B.0]

<選択記載項目 C 教育の質の保証・向上>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 透明性の高い成績評価を確立・運用するため、シラバスおよびルーブリックの整備を進め、シラバスの公開率を 100%とし、ルーブリックについても 9 割以上の科目で公開している。（別添資料 7331-iC-1） [C.1]
- 国際コースで開講されている完全英語授業の履修を一般コース学生にも条件付きで認めることにより、国際コースとの授業共有・単位互換を進め、英語で学ぶ環境を充実させた。[C.1]
- 2016 年度入学生から GPA2.0 以上を卒業の目安とした履修指導を実施しており、その効果は卒業生の GPA 値の上昇として着実に反映されている。（別添資料 7331-iC-2） [C.1]
- 教員の講義技術向上のための FD を実施し、アクティブ・ラーニングや新たな技術等を迅速かつ効果的に取り入れ活用している。（別添資料 7331-iC-3） [C.1]
- 学生の主体的な学びを促進するため、e-learning の導入を全講義科目の 20.1% まで進めた。（別添資料 7331-iC-4） [C.1]
- 教員の英語講義技術向上のため、海外にて英語による教授法の研修を実施しており、2016 年度（米国）は 6 名、2018 年度（豪州）は 4 名、2019 年度（米国、豪州）は 7 名の教員が参加している。[C.1]
- 各講義終了後、受講生に対して共通形式の授業評価アンケートを実施し、これを担当教員がとりまとめて総括するとともに、今後の改善に向けた取り組みを講じている。また、これら一連の作業内容は公開している。このことにより、学生の要望や意見を取り入れた教育改善に取り組んでいる。[C.1]
- 2020 年度より、学生の学習目標、学習機会、学修状況、教育システムの自律的な検証体制に関する 4 段階のアセスメント項目を設定し、その妥当性や改善の必要性について学部教育評価委員会において検討する体制を整えた。[C.1]

九州大学農学部 教育活動の状況

- 外部評価機関による農学研究院教育研究諮問会議を実施し、教育プログラムの質保証・質向上のために、教育に関して幅広い意見や提言を聴取している。このことにより、農学部が実施している教育に対する取り組みを学外の視点から点検している。近年の教育に関連する議題としては、農学研究院・生物資源環境科学府・農学部の教育研究のグローバル化戦略（2017年3月23日）がある。

（別添資料 7331-iC-5） [C.2]

<選択記載項目D 技術者教育の推進>

【基本的な記載事項】

（特になし）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 一部の教育プログラムは、（一社）日本技術者教育認定機構の JABEE 認定制度による技術者教育プログラムに準拠している。このことにより、一定の技術者教育の質を保証するとともに、自己点検と評価に基づいて実施する教育内容の継続的な改善が担保されている。（別添資料 7331-iD-1） [D.1]

<選択記載項目E リカレント教育の推進>

【基本的な記載事項】

- ・ リカレント教育の推進に寄与するプログラム（短期プログラムや履修証明プログラムなど）が公開されている刊行物、ウェブサイト等の該当箇所
（別添資料 7331-iE-1）
- ・ 指標番号 2、4（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 農学部体験授業プログラム（環境昆虫学及び野外学習、食と農の環境科学、森林のサイエンス）を、高校生（約 40 名）を対象として毎年夏に開催している。また、出前授業および体験授業を実施することにより、初等中等教育との連携を図っている。（別添資料 7331-iE-1）

分析項目Ⅱ 教育成果の状況

<必須記載項目1 卒業（修了）率、資格取得等>

【基本的な記載事項】

- ・ 標準修業年限内卒業率（別添資料 7331-ii1-1）
- ・ 「標準修業年限×1.5」年内卒業率（別添資料 7331-ii1-2）
- ・ 指標番号 14～15、17～20（データ分析集）
- ・ 指標番号 16（データ分析集）※補助資料あり（別添資料 7331-ii1-7）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 2016～2018年度の卒業生は、標準修業年限内卒業率は84.4～91.7%、「標準修業年限×1.5」年内卒業率は95.8～96.3%であり、高い水準を維持している。[1.1]
- 卒業時点での単位取得率は毎年95%を超えており（別添資料 7331-ii1-3）、学生は適切な数の授業を履修し、個々の科目を十分に学習して単位を取得している状況にある。成績評価の状況は、全体の85%以上がルーブリックにおいて単位取得上望ましい基準とされるC評価以上の成績を修めており、最頻値はA評価である（別添資料 7331-ii1-4）。[1.1]
- 本学部の専門性に即した資格の取得状況は高い水準にあり、毎年一定割合の中・高校一種教員免許取得者を輩出している（別添資料 7331-ii-5）。TOEFL-ITPの平均点は、4年次には560～690点に達しており（別添資料 7331-ii-6）、学生は継続的に英語の学修成果を上げている。[1.2]
- 毎年度実施している学生の満足度調査アンケートの結果、2016～2018年度も大部分から肯定的な回答を得ており、総じて良好な状況を継続している。
（（再掲）別添資料 7331-i3-2）[1.3]

<必須記載項目2 就職、進学>

【基本的な記載事項】

- ・ 指標番号 21～24（データ分析集）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の進路状況の特徴は、卒業生の70%前後が修士課程に進学することである（データ分析集：指標21）。就職希望者の就職決定率は88～100%と高い水準を維持している（別添資料 7331-ii2-1）。就職先は、農林水産業の枠を超えて、職業別および産業別ともに多様であり（データ分析集：指標番号23および24）、

九州大学農学部 教育成果の状況

農学の裾野の広さを反映している。[2.1]

- 大学院進学者は、本学の生物資源環境科学府への進学者が大多数であるが、他大学大学院、特に他の旧七帝大大学院への進学者が増えつつある（別添資料 7331-ii2-1）。これは、本学部学士課程の教育水準の高さ及び多様なキャリアパス教育の効果と考えられる。[2.1]

<選択記載項目A 卒業（修了）時の学生からの意見聴取>

【基本的な記載事項】

- ・ 学生からの意見聴取（学習の達成度や満足度に関するアンケート調査、学習ポートフォリオの分析調査、懇談会、インタビュー等）の概要及びその結果が確認できる資料（（再掲）別添資料 7331-i3-2）

【第3期中期目標期間に係る特記事項】

- 本学部の共通形式にて独自に毎年度実施している卒業時の満足度アンケートでは、教育カリキュラム、教員、学習研究支援環境、進学・就職支援、総合判定のいずれの項目でも満足あるいはおおむね満足の回答を得ており、学生に対する専攻教育が特定の専門知識・技能の修得に偏重することなく、幅広い支援が学生に受け入れられ評価されていることがわかる。（（再掲）別添資料 7331-i3-2）
[A.1]
- （一社）日本技術者教育認定機構の JABEE 認定制度による技術者教育プログラムに準拠した教育プログラムを採用している分野（生産環境工学分野）では、卒業時のアンケートに加えて、4年次の夏学期が終了した時点にもアンケートを実施しており、この時点で把握した内容および個別の問題点を担当教員間で共有し、このことによって卒業時に問題点を残さないよう工夫している。[A.1]

【参考】データ分析集 指標一覧

区分	指標 番号	データ・指標	指標の計算式
1. 学生入学・在籍 状況データ	1	女性学生の割合	女性学生数／学生数
	2	社会人学生の割合	社会人学生数／学生数
	3	留学生の割合	留学生数／学生数
	4	正規課程学生に対する 科目等履修生等の比率	科目等履修生等数／学生数
	5	海外派遣率	海外派遣学生数／学生数
	6	受験者倍率	受験者数／募集人員
	7	入学定員充足率	入学者数／入学定員
	8	学部生に対する大学院生の比率	大学院生総数／学部学生総数
2. 教職員データ	9	専任教員あたりの学生数	学生数／専任教員数
	10	専任教員に占める女性専任教員の割合	女性専任教員数／専任教員数
	11	本務教員あたりの研究員数	研究員数／本務教員数
	12	本務教員総数あたり職員総数	職員総数／本務教員総数
	13	本務教員総数あたり職員総数 (常勤、常勤以外別)	職員総数(常勤)／本務教員総数 職員総数(常勤以外)／本務教員総数
3. 進級・卒業 データ	14	留年率	留年者数／学生数
	15	退学率	退学者・除籍者数／学生数
	16	休学率	休学者数／学生数
	17	卒業・修了者のうち標準修業年限内卒業・修了率	標準修業年限内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	18	卒業・修了者のうち標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了率	標準修業年限×1.5年以内での卒業・修了者数／卒業・修了者数
	19	受験者数に対する資格取得率	合格者数／受験者数
	20	卒業・修了者数に対する資格取得率	合格者数／卒業・修了者数
	21	進学率	進学者数／卒業・修了者数
	22	卒業・修了者に占める就職者の割合	就職者数／卒業・修了者数
4. 卒業後の進路 データ	23	職業別就職率	職業区分別就職者数／就職者数合計
	24	産業別就職率	産業区分別就職者数／就職者数合計

※ 部分の指標（指標番号8、12～13）については、国立大学全体の指標のため、学部・研究科等ごとの現況調査表の指標には活用しません。

※ 部分の指標（指標11）については、研究活動の状況に関する指標として活用するため、学部・研究科等ごとの現況調査票（教育）の指標には活用しません。